



2021(仏暦2564)年 11月号 (第122号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

によらい ほんがん あり がた
如来の本願の有り難さ

■浄土真宗 (新)仏事のイロハ

■本願寺の本

こんじやく しよう
今昔ものがたり抄

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2020(令和 2)年	23 回忌	1999(平成11)年
3 回忌	2019(令和 1)年	25 回忌	1997(平成 9)年
7 回忌	2015(平成27)年	27 回忌	1995(平成 7)年
13 回忌	2009(平成21)年	33 回忌	1989(平成 1)年
17 回忌	2005(平成17)年	50 回忌	1972(昭和47)年

住職 法話

如来の本願の有り難さ

今月の法語

人間そのものの
目ざめを

呼びかけるものが
如来の本願である

早いもので、今年も残すところわずかとなりました。この一年、真宗教団連合発行のカレンダーの法語をお題にして、寺報の「住職法話」を進めてまいりました。

その中で、毎月悩みながら、私の体験談や身近な話題を取り入れながら法話をお伝えしていくと、共通したあることに気づかされました。それは、

決してこの私を見捨てることのない大いなる仏さま（如来）のはたらきでした。

今年の法語カレンダーの表紙のことは、

念仏となつて

私の口から

現れて下さる

み仏のはたらき

です。毎月の法語を振り返ってみますと、この表紙ことばに沿った法語が選ばれたのだと感ぜられます。

同様に、今月の法語をいただきますと、毎回悩みながら寺報を発行させていただくことが、私自身、人間そのものの目覚めでもありました。僧侶となりお寺という仏さま

のはたらきに満ちあふれた環境にあつても、皆さまと変わらない仕事や家事といった日常に追われる生活がありま
す。仏さまを忘れるわけでは
ありませんが、目の前の欲望を満たすことだけに追われているのが私の日常の姿です。

「仏説無量寿経」というお経でお釈迦さまは言われます。

ところが世間の人々はまことに浅はかであつて、みな急がなくてもよいことを争つており、この激しい悪と苦の中であくせくと働き、それによつてやつと生計を立てているに過ぎない。



ご縁を喜び、お念仏とともに

親鸞聖人 御誕生

850
立教開宗
800

身に染みるような一言です。決して見下していることばではなく、人間そのものの姿をよく見て、そのことを私に知らしめて下さり、救わずにはおられないと誓われたのが、
「如来の本願」です。

私自身、悩み多き人生を送っています。苦悩の最中に仏さまの救いはなかなか感じられないものでした。しかし、少しでも苦悩を乗り越えられた後に、仏さまの大いなるはたらきがあつたと実感できるものもあります。苦悩の中であつても、「南無阿彌陀仏」と常に呼びかける「如来の本願」の声は、私に真の生き方を示してくださいませ。

浄土真宗

④ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて―

「葬儀とお寺」

葬儀の時だけお寺が必要なの？

これまでまったく縁のなかった方から葬儀を頼まれることがあります。日頃からお寺に関わっているわけではありませんが、中には「我が家が何宗」なのかわからず、「とにかく仏教なんだから何宗でもいいや」と「急場しのぎ」のように頼んだり、そこまで極端でなくても「葬儀がすめばお寺に用はない」とばかりに、以後連絡がなかったりすることがあります。どうも、

「お寺は死者や先祖のためにある」ぐらいに思っておられるようです。

しかし、これには、お寺としてはほとほと困ってしまいます。

つまり、お寺に葬儀を依頼するということは、遺族（故人というより）がそのお寺の説いている教え（私たちの場合なら浄土真宗）を聞きしたがっていくということが前提にあるわけで、だからこそお寺は葬儀を引き受け、教えに

則して儀式を行うのです。言い換えれば、遺族はそのお寺の門徒になるということなのです。ですから、何よりも遺族の方たちが、悲しみを縁として教えを聞かなければなりません。けっして葬儀がすんだら「おしまい」ではなく、むしろ「出発点」であるわけです。

お寺を決め、葬儀を依頼するということはそれだけ重要な意味をもっているのです。もし、故郷などにお寺があり、先祖のお墓もあるということなら、まずそのお寺に連絡をとり、葬儀の相談をしてください。そして、今住んでいる近くの同宗派のお寺を紹介してもらったり、適切な指しを仰いでください。

いずれにしろ、お寺との関わりは葬儀や年忌法要だけで

はなく、日ごろから親しんでいただくことが大切です。お寺を「死者のための場」ではなく、私自身の「聞法の場」としていただきたいのです。

もし「死者のための場」としてしか捉えられなければ、あるいは「金のかかること」や「付き合いくさ」に頭を悩ますことになるかもしれません。しかし、「聞法の場」として関われば、無量の喜びを与えてくれる所となるでしょう。

ポイント

▼お寺は「死者のための場」ではなく、私自身の「聞法の場」

▼悲しみを縁として教えを聞くことが大切

「浄土真宗 ④ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

「^{ほとけ}仏さまの世界へ誘う ^{こんじやく}今昔もの^{しよう}がたり抄」

末本弘然 著／本願寺出版社 刊 1,980円(税込)

『^{こんじやくものがたりしゅう}今昔物語集』には、仏教的視点からみた数々の説話が収められており、^{ぎやくたい}虐待、^{こどくし}ハラスメント、^{さぎ}孤独死、詐欺など、現代にも通じるさまざまな問題が取り上げられ、その語り口は実にリアルで、苦悩や不安を抱えながら生きていた当時の人びとの息遣いが、時空を超えて伝わってきます。



本書では『^{こんじやくものがたりしゅう}今昔物語集』を、著者が独自に立てたテーマに合わせて並べ替え、各説話の現代語訳については、基本的に文の内容を尊重しながら、著者の解釈によって話の要点をまとめています。

本書を通して『^{こんじやくものがたりしゅう}今昔物語集』に記された、現代にも通ずるものがたりに触れてみませんか？ [本願寺出版社ホームページより]

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day

親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派
龍谷山 本願寺

編集後記

朝は霜が降りるようになり、季節が一気に進みました。冬支度が始まっています。◆『仏事のイロハ』の末本先生の新しい著書が発表されました。『本願寺の本』で紹介します。「今昔物語集」は、原文は平安時代末期に作られたとされていて、現代の諸問題にも通ずるものがあるという点ともありお薦めします。私は、早速、注文しました。現代人へのメッセージが込められていると期待しています。◆寒い季節がやっつけまいました。体調を崩されませんようご自愛ください。

